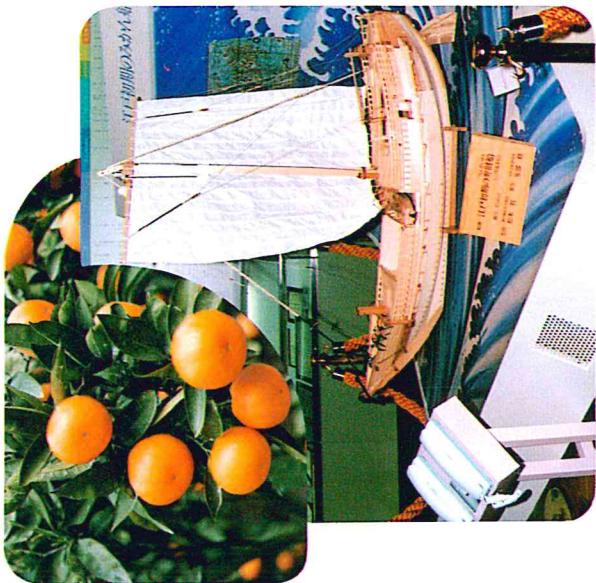




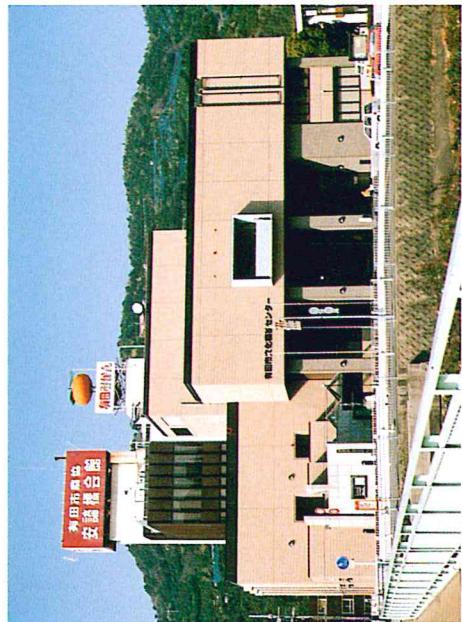
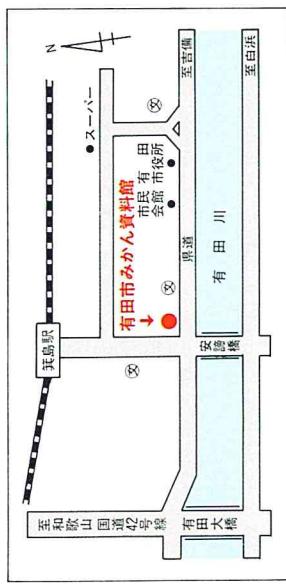
みかん作りのこよみ

利 用 案 内

有田市 みかん資料館



- 開館時間 午前9:30～午後5:00
(入館は午後4:30まで)
- 休館日 毎週火曜日、年末年始
- 入館料 無料
- お願い
 - ・他の人のご迷惑にならないようご観賞下さい。
 - ・樹の状態を整える。
 - ・良い果実をつけるため結果枝をつくる。
- 交通 JR紀勢本線箕島駅から南へ徒歩5分



月	農業作業	備考
1	防寒防風対策	
2	土作り	・土壤改良資材の投入。 ・中耕、深耕をする。
3	せん定	・日当たりを良くする。 ・樹の状態を整える。 ・良い果実をつけるため結果枝をつくる。
4	施肥	・果実の肥大生育等を良くする。
5	開花期	
6	病害虫防除	(5～9月) ・開花期から9月にかけて、品質の良いみかんを作るため、病害虫防除を行なう。
7	摘果	(7～8月) ・果実のなり具合をていねいに調べ ・小さい実や傷のついた実を摘みと り、毎年平均して良い果実を収穫 できるよううに摘果します。
8	かん水	・夏、日照りが続くとスプリンクラーで散水をします。
9	施肥	
10	収穫	(10～12月) ・樹を回復させるため、栄養をあたえ来年良い果実をつけるよう肥料をやる。
11	収穫	(10～12月) ・有田の山は黄金にそまり、色づいた実の収穫が始まります。
12		

〒649-03 和歌山県有田市箕島27番地
(有田市文化福祉センター内)
☎ (0737) 82-3221
82-3222

設施の概要

400余年の歴史と伝統を誇る本市みかん産業について、先人が残した貴重なみかん史や古文書等関係資料を収集展示し、かんきつ栽培の歴史と現状を紹介しています。

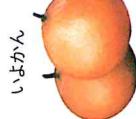


▲有田市の全景を空から一望できるパノラマ

ネーブルオレンジ



▲有田みかんの生産の様子(立体模型)



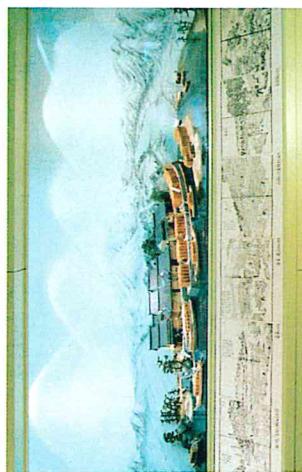
いよかん



▲世界のオレンジと日本のかんきつ



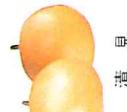
▼映像展示
ビデオシステムによる



▲江戸時代の
蜜柑出荷
状況
(立体模型)
夏みかん



▲江戸積のみかん船と
紀文伝の展示



時代	西暦	歴史のあゆみ
室町	1429[1440]~1521[1527]	糸我莊に自生の橘があったと記録されている。(糸鹿社由緒書) 接木が始まり、蜜柑の木が植えられ育てる。伊藤孫右衛門が、肥後八代より蜜柑の苗木を持ち帰ったと伝えられる。(紀州蜜柑伝来記)
安土桃山	1574[1601]~1597[1614]	有田郡で蜜柑が栽培され始めたことが記されている。(須谷村検地帳) このころから大阪、堺、伏見へ初めて蜜柑を積み出す。(紀州蜜柑伝来記)
江	1619[1632]	堺の商人が紀州富田浦から250石積みの船を借受け、江戸への海上交通を開く。 滝川原村の藤兵衛が初めて江戸に400籠の蜜柑を送ったと伝えられる。(紀州蜜柑伝来記)
戸	1624[1643]~1685[1698]	蜜柑の出荷販売組織、蜜柑方が逐次生まれた。 紀伊国屋文左衛門が嵐をひいて江戸に蜜柑を送ったと伝えられる。 紀州藩が「蜜柑御口銀」として蜜柑税を徴収。(紀州蜜柑伝来記)を記す。
明治	1734[1813]~1876[1887]	中井甚兵衛「紀州蜜柑の栽培が始まる」この頃有田郡で温州蜜柑の栽培が始まる。(紀州柑橘論) 金星の片畠源左衛門、夏蜜柑を山口県萩より導入。 有田郡の上山英一郎が北米に蜜柑を輸出。朝鮮へ蜜柑を輸出。
大正	1913[1958]~1959	田殿村大谷に試験場完成、新進気鋭の農学士朝倉金彦氏を場長に迎える。 有田市千田東地区で全国のみかん園では、初めてのスプリンクラーによる共同かん水がはじまる。 みかん15kgダンボール使用開始、LMSの呼称採用。